
このことばを

黒昭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このことばを

【コード】

N1593G

【作者名】

黒昭

【あらすじ】

生きること疲れようが、拒まれようが、生きようとした。その男の最後の独白。

(前書き)

短いうえにあまりきれいな文章とは思えないかもしれませんが、それでもよろしければ。

仕方なかったとは思っただけで、死から逃れられないという事は悲しいというより悔しかった。

いままで、結構精一杯生きていたと思う。

いじめにあっても、受験に失敗しても、それをきっかけに家族に軽蔑されても。

死にたくなるようなことなら、それこそ、死ぬほどあってきた。

だけど、死ななかった。

生きていればいいことがある、なんて事は考えなかった。実際にそうだったから。

でも、負けたくはなかった。

負けず嫌いな自分は死ぬことそれ即ち負け、と考えていた。今にしてはかなり幼稚な考えだが。

私の死因は癌だそうだ。

医者はあと半月の命だといっていたが、二年近く生きてしまった。いや、生かされたというべきか。

腹の中に直接栄養を入れられ、排泄物もまた、腹の中から。痛みを感じないように麻薬を飲まされ、気付けば今が何時かもわからないような脳みそになってしまった。

本当に、何のためにこんなことを。

答えは私の妻が答えてくれた。

「死ぬなんて、卑怯すぎるよ。これだけ私たちを悲しい気持ちにさせておきながら、何の責任も取らずに消えていくなんて……。」

必死に生きようとしている夫に対してそんな言い方はないんじゃないかな。

でも、理解できた。

多分、今の今まで生きてこれたのはまわりの人たちがそう望んでくれたから。

だから、死ぬことが負けだとか、どれだけ不幸だったとか、そんなことじゃないんだと思う。

どれだけ人に想われているか。

どれだけ人に望まれているか。

人間が生きる理由なんてそんなものだ。

ここで私は死ぬことがいけないだとかなんだとかというような高説を垂れるつもりはないのだけれど。

死ぬことがまわりの人間に与える影響、精神的なことはもちろん経済的なことなどまで様々だが、少なくともはいはずだ。

だから、自分の命なのだからどうしようが勝手だということを考えている人がいたら、考え直したほうが良いと思う。

その命、おまえの思っている以上に縛られているんだぜ。

さて、生きている以上、誰の仕業かなんて知らないが、勝手に義務

とか責任とかが付いてくる。

果たさなきゃねえ。

私に付いてきてくれた、最愛なんて言葉は似合わない、私だけの妻。愛情込めて育てたら、全く私に似なくなってしまった、聡明で冷静で意外と寂しがり屋な我が子。

お前たちに残しておきたい言葉がある……。

いまだけうごけ、わたしのからだ。

このひとことだけをつたえておくれ。

しゃざいと、こうかいと、かんしゃを。

「ありがとう」

願わくは、この言葉が出来るだけたくさんの人に聞こえるよう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1593g/>

このことばを

2010年11月6日22時24分発行